

平成 27 年度第 1 回大阪府立泉北高等学校学校協議会 議事録

- 1 日時：平成 27 年 7 月 2 日（木）15：45～17:00
- 2 会場：本校会議室
- 3 出席者 <委員>
山下 勝己氏（大阪府立大学工学域長）、泉川 敬介氏（堺市立若松台中学校校長）、中村 俊一氏（立志館ゼミナール館長）、岡部 かおり氏（泉北高等学校 PTA 会長）、尾崎 和美氏（泉北高校後援会 会長）
- 4 挨拶 校長
 - ・本日は平成 27 年度学校経営目標に加え、各分掌長から今年度の取り組みについてご説明させていただきます。忌憚のないご意見とご助言をいただきますよう、よろしくお願いいたします。
- 5 本年度の学校経営目標とその取り組みについて
 - ①公立高校入試選抜について（教頭より）
 - ・前期選抜のみの入試から、帰国生対象の前期選抜とその他の生徒対象の後期選抜の入試を実施することになった。
 - ・英国数の 3 科目入試から、5 科目入試となる。
 - ・受験生から自己申告書を提出することになった。
 - ・これまでは定員割れがあった場合のみ第 2 希望による合格者が出る仕組みであったが、定員割れでない場合も第 1 希望あるいは第 2 希望による合格者が出ることになった。
 - ・調査書の評価が 10 段階の相対評価から 5 段階の絶対評価になった。
 - ・大きな入試改革となり、外部での説明会日程も例年より前倒しで実施されるようになってきた。
 - ・専門学科の特色と進学実績のアピールを重視して広報する予定である。
 - ②平成 27 年度学校経営計画及び学校評価について（教頭より）
 - ・他校の例と同様に生徒の家庭学習の時間が短いことが大きな課題となっている。宿題等を通して家庭学習を促す取り組みを実施しているが、家庭学習の時間において全国平均よりも低い状況にある。現在第 1 学年の担当教員を中心に具体的な対策を考えている途中である。
 - ・授業アンケートの結果から、生徒の授業に対する満足度が低い場合は、当該教科で具体策を提案できるように準備中である。
 - ・「骨太の英語力養成事業」において TOEFL iBT で高得点を獲得できる生徒を育成するための取り組みを実施するため、スーパーイングリッシュティーチャーが配属されている。
 - ・スーパーグローバルハイスクールの指定を文部科学省から受け、スーパーサイエンスハイスクールと同様に課題研究に取り組む。
 - ・スーパーサイエンスハイスクール再指定の 4 年目にあたり、再々指定を受けられるようによい成果があげられるように努力している。3 年目の中間評価では文部科学省から高い評価を得られた。

- ・大学進学実績はまずまずであると考えているが、生徒がどれほど進学先について考えて選択しているかをより深く考えて判断できるような進路指導を実践していきたい。今年度よりベネッセのファインシステムを導入して生徒の基礎学力の把握に努め、生徒が将来の夢をはっきりと自覚できてから進路を選択できるような体制を作っている。
- ・学校説明会を4回から5回に増やして、開かれた学校をめざす。また、本校の開かれた学校の取り組みが一方的ではないものになるような仕組みを検討中である。
- ・支援の必要な生徒にきめ細やかな対応ができる体制を整えて教育活動にあたっている。
- ・ボランティア活動についてはこれまでも取り組んできたが、スーパーグローバルハイスクールの取り組みにも取り入れており、さらに発展させていく予定である。

②各分掌等の取り組みについて

1) 教務部の取り組みについて（教務部長代理より）

- ・保護者が参加しやすい公開授業を企画実施しており、昨年度の実績も現在上回っている。
- ・授業アンケートのフィードバックについては各教員が重要視しており、次からの授業で改善できるように努めている。

2) 生徒指導部の取り組みについて（生徒指導部長より）

- ・あいさつ、掃除、マナーの向上を3本柱に取り組んでいる。
- ・生徒の他者との違いを受け入れることができる優しい気持ちを持った生徒である。
- ・自転車の乗車規則を遵守できるように指導している。
- ・遅刻は昨年との6月現在の比較では若干下回っている。

3) 進路指導部の取り組みについて（進路指導部長より）

- ・目標を持って入学する生徒が他校に比べて多いので、生徒各自が本当に進みたい道に進めるような進路指導を1年次からできるように心がけている。

4) 保健部の取り組みについて（保健部長より）

- ・生徒が健康に安全に学校生活を送れるように努めている。
- ・教室の整理整頓及びトイレ清掃の徹底に力をいれている。
- ・教員及び生徒対象の救急措置講習を実施する。
- ・教育相談係が中心となってきめ細やかな教育相談を行っている。

5) 国際総務部の取り組みについて（国際総務部長より）

- ・国際総務部通信を1学期では8回発行している。留学生のインタビューや留学生からの泉北生へのメッセージ、海外研修の参加する予定の生徒たちに抱負などを語ってもらっている。これらを通して、国際理解を普及できるようにしている。
- ・オーストラリア、カナダ、ハワイへの語学研修、インドへの文化交流研修、SSHによるオーストラリア、ボルネオの研修を実施している。また、台湾国立彰化高級中学校やJET 記念日米高校生交流で来日する生徒が本校生の家庭にホームステイする。
- ・7月3日に大学見学会を実施し、関西大学と大阪府立大学を見学する。

6) 図書情報部の取り組みについて（図書情報部長より）

- ・図書館の開館時間を増やす取り組みを行っている。
- ・国語科の協力を得て、校内読書感想文コンクールを実施している。

- ・文系の課題研究で調査学習に図書館利用が増えた。
- ・バラエティに富んだ蔵書を増やす努力をしている。
- ・情報関係の機器が老朽化していることが問題である。
- ・PTA や SSH の予算により雑誌を購入している。

7) 広報部の取り組みについて (広報部長)

- ・学校新聞「月泉」で学校について知ってもらえるように配布している。
- ・学校説明会の企画運営や泉北高校のパンフレットやガイドブックを作成している。

8) SSH の取り組みについて (SSH 主担より)

- ・生徒たちの国内研修や海外研修に多くの予算を活用している。
- ・生徒主体にした取り組みを大切にして、生徒の興味関心を伸ばしていきたい。
- ・カリキュラムの開発、地域との連携、海外機関との連携を主としているが、再々指定のための新しい課題を見つけていく必要がある。

9) SGH の取り組みについて (SGH 研究主担より)

- ・今年度は「グローバル基礎」「グローバル活動 I」を実施する。
- ・「グローバル基礎」では課題研究を1年次より始める取り組みで、18名が仮登録している。
- ・「グローバル活動 I」ではネパール震災支援募金活動や校内模擬国連活動など多彩なボランティア活動等の機会を設けていきたい。
- ・来年度はボルネオ及び北欧方面のプロジェクト型海外研修や国際理解フォーラム、再来年度は国際会議を開催する予定である。
- ・2年次からは国際文化科160名が2年間取り組む課題研究が始まる。

6 協議

(委員) 自己申告書の指導に力を入れるつもりであるが、アドミッションポリシーの10%はどれくらいの比重があるのか知りたい。

→ (学校) アドミッションポリシーに極めて合致する生徒をピックアップする形式になる。

(委員) これまでとは違って2つの学科を併願するという認識でよいのか。第1希望ではなく第2希望で合格ということもあり得るのか。

→ (学校) そのとおりである。希望している場合はそのようになる。

(委員) 入試制度は大阪府教育委員会から指導されてそうなるのか。泉北高校独自で考えることはできないのか。

→ (学校) できない。国際文化科・総合科学科を持つ3校で今回の変更への意見は大阪府教育委員会には伝えた。

(委員) 絶対評価は何か共通の基準などがあるのか。

→ (委員) 堺市では校長間で話し合い、ある程度の共通基準を持っているが、他市の状況はわからない。

(委員) 中学生への周知は実施されているのか。

→ (学校) 2月に発表され、説明は配布されているようだ。本校でもこの変更について説明会で丁寧に説明するつもりである。

(委員) 学校説明会の案内が大阪全域から届き対応に苦慮している。できれば直接中学生がオンライン

ンなどで申し込めるようにしてほしい。

→ (学校) 7月のオープンスクールから個人からの申し込みを受け付けることになった。
今年度はすべての説明会で同じように対応することになっている。

(学校) 科学教室について評判はいかがか。

→ (委員) 何年も続いていることから効果があるように思われる。

(委員) 授業アンケートは記名であれば、あまり精度の高い結果が得られないと思うが。

→ (学校) 記名にするのは大阪府教育委員会からの指示である。回収時には担当者に配慮するように注意している。

(委員) 授業アンケート結果に対してはどのような取り組みをされるか。

→ (学校) 評価が低い場合は管理職による授業見学を複数回実施しアドバイスなどを行っている。また、評価が高い教員の名前を公表し、授業見学を促している。単年度で判断せず複数年度で判断し、教科の先生方の協力を仰いだりしている。

(委員) スーパーサイエンスハイスクールやスーパーグローバルハイスクールについて、どのように広報しているのか。中学生が受験するとき効果的に働いて、受験生が選んでくれたらよいと思うが。

→ (学校) スーパーサイエンスハイスクールは知名度が高くよく知られているが、スーパーグローバルハイスクールは昨年度から始まった取り組みで、まだ周知は徹底されておらず、模索中である。

(委員) 不登校になっている生徒が登校できるようになっているのか。

→ (学校) ケースバイケースである。スクールカウンセラーの力も借りながら支援に当たっているが、答えを出すことが難しい問題である。

(委員) 防災安全上の面でスリッパ履きの可否を検討している。

→ (学校) 中学校ではまだ上履きが多い状況である。

(委員) この4年間で先生方が前向きに取り組まれている様子がよくわかった。特に授業アンケートについて真剣に取り組む改善に向けて努力しているのは素晴らしい。自学自習時間が短いということについて、生徒は素直で授業がしやすいと感じられるが、生徒の立場からは高校生活に満足している反面、自分自身に能力のキャップをかけてしまっていると思う。これからはSSHやSGHへの取り組みへの参加を促しながら生徒のモチベーションを上げていく必要があると感じる。先生たちの熱いメッセージが生徒の心を動かすのではないか。これから少子高齢化の大変な社会を生き抜くことができる力をつけてあげてほしい。また、18歳から投票が可能になったことを受けて、自分が一票を投じる主権者教育について追加して学ばせることが必要なのではないか。